

佑啓

環境

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

富岡 将訓

青年寮を卒業した子どもと共に、一月十九日に開かれた法人主催の成人式・新年会に参列した。その子は開所してすぐ児童自立支援施設から措置変更され青年寮に入所した。当時は他の子ども達とのトラブルが多く、数カ月後には大きな問題を起こしてしまい何度も警察署へ足を運ぶこととなった。

(いわゆる事情聴取)

入所児童は施設長が監護を任されている。児童相談所や警察署から彼の人生を左右しかねない厳しい意見も多く、このまま青年寮で暮らすことが良いことなのか正直悩んでいた。そんな状況でも見捨てずに最後まで守るよう一貫して導いてくれた里見理事長、法人を守る立場を考えると、常人では耐えられないような大きな重圧があったことと今更ながら思う。

青年寮を卒業し、成人施設の厨房で働くまでに成長した彼と成人式を迎えられて、とても感慨深い思いに浸ることができた。

福祉型障害児入所施設である青年寮には、虐待を受けた児童、家庭での療育が難しい児童、不適応行動等々の背景から児童相談所に保護され、措置あるいは一時保護



児童から成人に

の委託により施設にやってくる。様々な事情を抱えている子ども達が、一緒に生活することとなるので、順風満帆とはいかず開設から三年間は日々様々な問題が起きていた。

今日は何が起こるかと思慮しながら子どもと向き合っている毎日、若い職員の気持ち折れてしまわないか心配は尽きなかった。子どもなりに施設に慣れて安心できる居場所と感じられるまでは、焦らず無理させずに時間をかけようと職員と話し合いを重ねてきた。

とにかく子どもと向き合うことは後回しにできないので、職員は常にアンテナをはっている。子どもの心を掴む大事なポイントを逃してはならぬと、かける言葉とタ

イミングを常に探りながら関わっているつもりである。思い付きで発した言葉で何度後悔をしたことか。「ああ言えば良かった」「なんと言ってしまったのか」と。

施設長の立場としては慎重にならざるを得ない判断も増えてくる。でも子どもの為に間違っていないという信念がないとやってられない、と自分に言い聞かせてきたように思う。

初めて施設に来る子どもの中には、職員を先生と呼ぶ子がいるのはなぜかと考えたことがある。「施設は学校ではない」「名前前で呼んで」と伝えても、しばらくは変わらない。学校と同じような感覚なのか、先生と言うように覚えさせられたのかわからず、なんで先生と言うのかなとある児童へ聞いたことがある。「施設は大人になるために色々なことを教えられる場所だと思っていた」と答えた子どもに、そんな立派なことを考えていないかと恥ずかしく感じたことを覚えている。

振り返れば平成二十八年四月にふる里学舎千倉が立ち上がった。千葉県では九番目、三十九年ぶりの児童入所施設が開所することで関係機関からは注目を受けながらのスタートであった。南房総市の自然の恵みを存分に活かせる立地に、元々建築を学ぶ専門学校の保養所であった建物を改修し、独立したユニット型の住居で暮らせる生活環境を整えた。

ついで令和三年四月に袖ヶ浦市にふる里学舎蔵波青年寮が開設された。千葉県社会福祉事業団の運営していた養育園の廃止に伴い、入所児童の受け皿になることを目的として、すでに民間移譲されてい

たふる里学舎蔵波(成人の入所・通所施設)からのサポートを受けられる環境であった。

千倉と青年寮には、中学生を主とした中軽度の知的障害のある児童を多く受け入れてきた。ちょうど思春期と重なる多感な年頃の子ども達は、職員を困らせるような行動を起こしながらも少しずつ気持ちが落ち着き、乱れた生活サイクルが修正され社会へ出るための自活訓練や、職業訓練など取り組めるようになっていく。

仲間や職員との信頼関係ができることで、毎日が楽しめる暮らしへと変化していく。理解できなくても多くの人に支えられている感覚が、子どもの成長にはとても大切だと思う。

「会社じゃないの?」と、ある子どもから言われたことには返答に困ってしまった。今が仕事なんだよなと思いつつも、なんと応えれば良いか言葉に詰まり、仕事もしない家庭の親父が小言を言っている自分が過ごしている自分を考えていた。

考えてみると子ども達に対して特別なことをしている意識は全くない。聞かれたらいつもそう答えている。ただ家族として子ども達と共に暮らしながら、道が逸れたら指摘し、人に迷惑をかけたなら注意し、周囲のために行動したら褒めるだけ。人に感謝をすることが大事だと言葉で伝えても理解できない子ども達に、しつこいと思われながらも繰り返す同じことを話している自分。

施設の子ども達は、無意識ではあるが年上の振る舞いを見て行動を覚え、年下の面倒を見ることから自分の行動の善し悪しを確認し

ているように思う。職員がしっかりと求めるよりも環境を整えられれば自然に成長していくのが子ども達である。

長きにわたり知的障害児者への支援に力を注いできた佑啓会には、頼りになる先輩がたくさんいる。子ども達にはどんな関わりや環境が必要か、人の手を必要としているのか、何が弊害となっているのかを察知できるプロ集団。経験という子育てマニユアルに勝るものはないと実感している。

令和七年四月に「ふる里学舎船橋」が開所予定である。法人で三施設目の児童入所施設となるが、入所や一時保護の相談が絶えない今のご時世、社会の課題とはいえず、本来は家庭で育ててほしいことを思うと複雑な気持ちにもなる。障害の程度や性格・行動はもちろん、一人ひとり違った心の傷を抱えている子ども達も、安心して暮らせる場を選択できるように一緒に考えていきたい。



ふる里学舎船橋

現在、プロジェクトチームが中心となり開設準備を進めている。担当職員が試行錯誤を繰り返しながら、新施設の色が出来上がって

くると思う。青年寮の立ち上げでは、千倉での経験が大きく活かされた。きつと千倉と蔵波の経験が盛り込まれた素晴らしい施設が出来上がっていくことを楽しみに待ちたい。

児童施設が三つになることで、今後更なる注目をされていくだろう。今回厚生労働省の「介護のしごと魅力発信等事業」を全国社会福祉法人経営者協議会が受諾し、多くの人材が福祉に興味を持ってほしいと、児童入所施設のリアルを発信するショートムービーの撮影が青年寮で行われた。日頃想像できないような経験を通して、たくさんの方から「すごかったよ」と声をかけてもらえた子ども達。自分の頑張りを認めてもらえることは、大きな自信となったことは間違いない。

日常の中で気持ちが前を向くきっかけや、自信を感じられる舞台をどれだけ用意してあげられるか、まだまだやる事は尽きない。

(ふる里学舎蔵波青年寮 施設長)



明るいスタッフに囲まれて

うちの子は名俳優

弓場 洸紀

「はい！カット！頂きました。」
「これで全ての撮影シーンが終わり
ました！クランクアップです！」
福祉現場で働いていて、中々聞くこと
の無い言葉が飛び交う。監督から花
束を受け取っているのは、有名な俳
優とその横には青年寮で生活してい
る柳田君。彼が普段通っている特別
支援学校での撮影を終え、全てのシ
ーンを撮り終え、緊張から解き放た
れたのか、安心した笑顔を見せてい
ます。

遡ること二年前、私は厚生労働省
が主催する社会福祉HERO、Sと
いうイベントに登壇させて頂いただ
けです。社会福祉の仕事は面白い！
この魅力を沢山のの人に伝えたい！
そんな思いで働いている現場スタッ
フが全力でプレゼンし、この業界を盛
り上げていきたい、そんなイベント
です。



2月10日に公開されたショートムービー

自分が所属している青年寮の取り
組みと、そこで暮らす子ども達との
関わりについて、お話をしたわけ
ですが、なんとその内容が映像化さ
れることになったのです！最初の話
を聞いた時は頭に「？」がいつぱい
でした。また、監督や俳優もいて、
実際に撮影の機材も入れますとの話
にイメージも湧かず、何を準備すれ

ばいいのやら、どう動けばいいのや
ら。

ほどなく監督から「ロケ地で青年
寮を貸してほしいです。また、セリ
フがある役については俳優が演じま
すが、エキストラや主役俳優の相手
役は実際の職員と、青年寮で生活す
る子ども達に出演して頂きます！」
という話がありました。うちの子ど
も達に演技？できるかな。誰しもが
そう思ったことでしょうか。子ども
だけではありません、職員も誰が出
演するのでしょうか。

まずは出演者を決めましょう。保
育士役A、児童指導員役B、主演の
相手役となる入所児童役の「悠太」
その他入所児童役のC、この四つ
の役でオーディションをすることに
なりました。この「悠太」という役は
非行を繰り返す、家庭で暮らすこと
が難しくなり施設に来ることになっ
た子どもという設定です。青年寮に
来て大きく成長し、まもなく卒業を
迎えるという状況。セリフが多く、
表情で魅せる部分もかなりありまし
た。そもそもオーディションの時点
でこのセリフを覚え感情を表現する
ことができるのだろうか。しかし、
私の心配とは裏腹に子ども達は堂々
とやっつてのけます。なんて頼もし
い人達だ！そんな中、監督の心を射止
める演技をしたのは、悠太役の候補
ではなく、児童C役の候補で来てい
た柳田君でした。児童Cのセリフを
読んでいた時、監督から「ちよつと
悠太のセリフもやってみようか」と
今思えばよくそんな無茶ぶりに
対応することができたな！毎度の事
ですが、子ども達の内に秘めた力は
私たちの想像の上を走ります。

オーディションが終わった次の週
に、主演俳優が役作りのために青年
寮に来てくれました。俳優はすぐに
子ども達の心を掴んで青年寮に溶け
込みます。たった三日間でしたが、
本当に色々なことを吸収し、感じ取
つてくれました。「実際に体験して
みると、思ったよりも施設は家庭的
な雰囲気になっていました」なんて嬉
しい感想を寄せてくれました。体験
の最終日、柳田君とセリフ合わせを
行いました。どこかの子役事務所に

所属しているのかと思うほどに、こ
の段階から堂々とした演技をしてい
ます。「撮影期間中は僕のことは悠
太と呼んでください」とか言ってい
たりして、彼の本気度を感じ
たものです。思い返せば出会ったの
は青年寮がオープンした四年前、当
時中学一年生になったばかりという
こともあり、幼さが目立ち、身長も
寮内で一番低い子でした。その分い
つも元気いっぱい、ニコニコして
いてなんでも楽しそうに取り組む姿
勢が印象的でした。年齢が上がって
いくと身長もどんどん伸びていき、
今では私よりも大きくなりました。
一人前に反抗期も迎え、部屋に立っ
た籠ったり、周囲に苛立ちをぶつた
りしたこともありましたが、

今回のムービーをきっかけに、彼
は身長だけではなく人としても大き
く成長しました。知的に障害を持ち
いるんな事情を抱えて施設で育つて
きた子が、果たしてどんな演技をし
ているのか。きっと皆さんの想像を
超えてくると思います。因みに私も
出演していますが、関西弁の胡散臭
い演技はスルーして、子ども達の頑
張りを感じて頂ければ幸いです。
(ふる里学舎蔵波青年寮 支援員)



撮影の合間に談笑する2人

「おかえり」



ショートムービーは
こちらから

感謝の気持ちを込めて

須山 輝瑠

令和七年一月十九日、佐啓会主催
の成人式が行われ、里見理事長をは
じめ、沢山の保護者、職員にお祝
いしていただきました。私が佐啓会
で過ごしてきたこれまでの話をさせ
ていただきます。



成人者代表挨拶

令和三年、高校一年生だった私は
ふる里学舎千倉に入所しました。当
時は家族関係がうまくいかず、家族
にあたってしまふことが多くありま
した。大きな声では言えませんが何
度か警察のお世話になったこともあ
ります。環境を変える為、家庭を離
れふる里学舎千倉で生活すること
になりました。

それまで集団での生活をしたこと
のない私は、何をどう過ごせば良い
のかわからず、不安でいっぱいだっ
たことを覚えています。それでも長
尾施設長をはじめ、千倉の職員や一
緒に生活する仲間が温かく私を受け
入れてくれました。自宅に帰れない
寂しさもありましたが、今思えばふ
る里学舎千倉に入所できて本当に良
かったと感じています。

千倉では行事を通して様々な経験
をさせてもらいました。コロナ禍で
外出が制限されている中、長尾施設
長が「キャンプするぞ」と言い出し
て驚きました。どこに行くのかと思
えば施設の中庭でキャンプが始まり
ました。キャンプではテントの設営
から、火起こし、カレー作りと、職
員、利用者みんな協力して行い
ました。自分の部屋がすぐ横にある
のに外でみんなと泊まる体験は一般
家庭でもなかなか味わえません。

コロナも収束しはじめた頃には鴨
川に一泊旅行へ連れて行ってもら
いました。旅行の宴会では職員が余興
をする流れですが、今回は利用者で
余興をすることになりました。中学
生・高校生の七名がチームになり、
韓国の人気グループであるBTSの
ダンスを行うことになりました。学
校から帰ってきたら練習の日々で、
喜んでもらえるか少し不安な気持ち
もありましたが、結果としてはとて
も盛り上がりました。里見理事長も
喜んでくれました。BTSのダンス
は旅行の余興だけでなく、佐啓会
の辞令交付式や、三十周年の式典、納
涼祭と、とても大きな舞台で踊らせ
ていただきました。練習は大変でプ
レッシャーも凄かったのですが、み
んなでやりきったことに結束力も高ま
り充実した日々でした。

高校二年生になり進路相談が始ま
りました。漠然と介護の仕事をして
みたいと思う気持ちがあり、長尾施
設長に自分の気持ちを伝えると「任
せなさい」の一言。すぐにふる里学
舎静風荘での実習を実現してくれま
した。静風荘の職員から親切丁寧に
介護業務を教わり、この実習で明確
に介護職になりたいと思うようにな
りました。



静風荘利用者との談笑

高校を卒業して、ふる里学舎千倉
から市原のグループホームへの入居
が決まりました。千倉を離れること
に少し寂しさもありましたが、いつ
でも千倉の職員に相談できる環境だ
ったので、そこまで不安はありません
でした。そこからは本格的に静風
荘での実習を経て、昨年四月に職員

として佐啓会に入職させていただ
くことができました。今は介護福祉士
の資格を取得することを目標に日々
頑張っています。



千倉職員と迎えた成人式

今後は佐啓会の職員として、里見
理事長をはじめ、職員みなさんに
教えていただいたことを活かし、少
しでも恩返しをしていきたいと思っ
ています。これからも温かく見守っ
ていてください。
(ふる里学舎静風荘 職員)

佐Tube



障害福祉で働く職員のリアルを発信！
2週間に1度動画を公開中。
是非、ご覧ください。

編集後記

令和六年度も残りわずか。新任職
員も一年が経過し、今では自信溢れ
る表情を見せてきています。次年
度も多数の新任職員が佐啓会に入社
します。新たな風を吹かせてくれる
ことに期待を寄せて佐啓一三一号を
お届けします。
(支援員 栗川克明)